

燦さんホールディングス社長 古内耕太郎氏

直球 緩球

——葬儀業界最大手の「公益社」を傘下に置き、葬儀の「生前準備」を提唱している

「有料老人ホームやシニアの市民グループ、自社の会館などで『エンディング・セミナー』を開催している。(参加した)皆さんの関心は大変高い」

——最近、映画やテレビドラマ、小説などで死をテーマに取り上げる作品が話題を呼んでいる

「平均寿命が延びて、考える時間が増えたことが背景にある。『団塊の世代』は高齢で亡くなる



ふるうち・こうたろう 明治学院大文学部卒、昭和62年アメリカンファミリー生命保険入社。同社のインターネット通販事業を立ち上げる。アフラックダイレクトドットコム(現アフラック保険サービス)常務、AIG顧客戦略本部マーケティング部長を経て平成17年燦ホールディングス入社、21年社長。東京都出身、48歳。

高齢者の日常生活も支援

両親の喪主になる確率が高い。そうしたことから、次第に自分自身の今後について考えるようになるよ

うだ
——葬儀や仏壇・仏具、墓石などを含めた葬祭関連の国内市場規模は約1兆8千億円になったとい

「かつては地域のコミュニティが葬儀を任切り、『通夜振る舞い』などの世話は隣近所が手伝い、葬儀社はその下請けだった。だが過疎化と少子高齢化で仕組みが機能しなくなり、いまでは葬儀社が全てのサービスを提供している。葬儀にかかる費用は平均200万円前後といわれるが、家族だけの『家族葬』や、火葬だけの『直葬』なども増え、形式は様変わりしてきた」

——遺族のケアにも力を入れている

「大事な人を失った後の『グリーフケア』の一環でライフサポート関連企業と提携し、高齢の方の日常生活全般を支援している」

(藤沢志穂子)